



地域に根差したJAに 令和2年度事業運営委員意見交換会

JA

うつのみやは10月15日から28日にかけて、管内の各地区で令和2年度事業運営委員意見交換会を開催しました。JA事業について、意見要望等を取りまとめる役割を担う地区の代表者である事業運営委員から意見・要望を受け、地域に根差した事業を行うことが目的です。

同意見交換会では、JA担当者からJAが独自に行っている、自己改革の取り組みについて、『農業者の所得増大』『農業生産の拡大』へのさらなる挑戦、『地域の活性化』への貢献、『自己改革の実践を支える経営・財務基盤の強化』を基本方針として、『営農振興・担い手育成積立金』や、親元独立経営支援事業を活用し、農業者、新規・親元就農者への直接支援を行っていることなどを説明しました。

事業運営委員からは、各地区や生産者が抱える、JA事業や取り組みへの意見、要望が出されました。特に地区農業の活性化、JA店舗や施設の利用促進等について、意見交換が行われました。

JAでは、同意見交換会で出された意見要望を各部署、事業所で共有するとともに、各地区事業活動の基盤とすることで反映させていきます。

営農相談員活動紹介

組合員の営農活動全般の総合窓口として各種相談事の対応や地域農業の振興に寄与する取り組みを行っている営農相談員の活動について紹介します。

» 目的

営農相談員は農業経営の改善や生活の向上を図るため営農指導員、関係機関と連携し、組合員に対し提案、活動を実施し、地域農業の担い手の育成・確保に取り組み、地域農業の持続的な発展を図っています。

» 主な任務

1. 関係部署及び関係機関と協調のうえ、JA 事業の目的達成のための営農支援活動
2. 地域農業の担い手の確保・育成(新規就農者支援)につとめ、地域農業の安定と発展に寄与する活動
3. 農家経営に関わる提案・相談・情報提供等により農家経営支援活動
4. 農家への訪問や対談活動を通して、JAと組合員との結び付きの強化を図る活動
5. 農家経営改善のための諸活動

» 主な活動

営農活動に対する支援

農家の経営を踏まえ新規品目の提案など、総合的な事業支援を一体的に取り組んでいます。

新規就農者に対する支援

就農相談から就農、就農後の経営安定までの一貫した支援を行います。

経営安定に向けた支援

営農指導員と連携し、経営安定に向けた提案等を行います。

その他

無料職業紹介事業の対応など労働力支援に資する活動を行います。



集落営農相談会の様子



認定就農研修制度 IN 先進農家を
受けた方々

次年度の販売金額13億円目指す トマト専門部がリモートで市場ヒアリング



東部選果場で行われた
トマト市場ヒアリング

あいさつする岡本専門部長



トマト専門部は10月9日、令和3年産トマト販売に向けた市場ヒアリングを宇都宮市上籠谷町の東部選果場で開催しました。新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し、京浜市場担当4社とはリモートによるウェブ会議を行いました。全農とちぎ、JAの担当者ら6人が参加し、トマト専門部の出荷担当者と個別に次年度に向けた販売会議と情報交換を行い、令和3年産の販売金額約13億円を目指すことを決めました。

岡本直樹専門部長がコロナ禍の中、最前線で青果物を販売している担当者に激励と感謝の言葉を述べ、「次年度についても厳しい販売環境になると考えられるが、連携を図り一緒に力を合わせていきたい」とあいさつしました。

JA販売担当者が本年の販売実績報告と次年度に向けた販売対策を報告、市場担当者は本年度の反省と次年度に向けた販売計画を報告しました。市場担当者は「販売先に応じたアイテムを注文通り対応していただいた。次年度も今まで通り取り組んでいる契約販売をしっかりと継続し、併せてロット拡大を図り目標単価を目指したい」と話しました。

JA担当者は「今回、リモートによる市場ヒアリングを初めて試みたが、問題なく会議ができた。今後は、市場関係者と仲卸、量販店担当者ら複数の関係者での商談も積極的に活用し、新たな販売方法のひとつにしていきたい」と述べました。

販売金額40億1千万を目指して 令和3年産JAうつのみや苺専門部販売対策会議・とちおとめ統一目ぞろえ会

苺専門部は10月21日、ホテル東日本宇都宮で令和3年産苺専門部販売対策会議・とちおとめ統一目ぞろえ会を行い、部員や関係者36人が参加しました。

販売対策会議では、JAうつのみや担当者から販売方針について報告。前年実績を上回ることを目標とし、販売金額40億1千万円を令和3年産の目標としました。

目ぞろえ会では市場担当者から出荷規格について、現物を用いて説明されました。カラーチャートを厳守するとともに、品質保持を第一優先とした低温保管の徹底が呼びかけられました。

今回の会議について、JAうつのみや苺専門部の上村正明専門部長は「今回の販売対策会議と目ぞろえ会を受けてもらって、規格等の確認をしてもらい、JAうつのみや産のイチゴを有利販売できるようにしたい。消費者にも喜んでもらえる品質での出荷をお願いしたい」と念願しました。見形繁常務理事は「天候不順や定植の遅れなどの問題はあると思うが、皆さんには一致団結していただいて頑張ってもらいたい」と期待を込めました。

ホテル東日本宇都宮で行われた
販売対策会議・目ぞろえ会



出荷規格を確認する部員

とちあいかなどの栽培状況視察

上三川町で苺専門部が現地検討会

苺 専門部は10月30日、現地検討会を上三川町の上野裕さんの圃場で開催。部員やJAの担当者ら約90人が参加し、とちおとめととちあいかの栽培状況を視察しました。

上村正明専門部長が「上野さんは前年度の苺専門部立毛共進会最優秀賞を受賞している。この検討会を参考にして、自分の圃場の栽培管理に役立ててほしい」とあいさつしました。

とちおとめ27畝、とちあいか14畝、スカイベリー23畝を栽培している上野さんは、とちおとめととちあいかの土壌消毒方法、たい肥や基肥の種類と分量、夜冷処理の期間などを説明。その後、部員たちはハウス内のとちおとめととちあいかの生育状況を視察しました。

総合検討では、JAうつのみや園芸課の渡辺菊男技術顧問が「上野さんは、新しい品種に挑戦するだけでなく、作柄が安定しているので、高い収益を上げている。皆さんも上野さんの圃場を参考にしながら、次年度のイチゴ作りにつなげてほしい」と総括しました。



上野さんの圃場を視察する部員



あいさつする上村専門部長



栽培方法などを説明する上野さん

部門間連携の強化で利用者ニーズへの対応を

令和2年度渉外担当者等交流会

JA うつのみやは10月21日、JA本所にて令和2年度渉外担当者等交流会を開催。本研修会は渉外担当者の連携・情報交換等を通じて、総合事業性の発揮、多様化する利用者ニーズへの迅速な対応を目的としたものです。管内各地区の営農、金融、共済の各部門の渉外担当が参集し、部門間を超えた連携等について意見交換を行いました。

研修会では、各地区の業務担当者が意見交換を通じて自他区の課題解決、目的達成のための部門間連携の生かし方について、「ブレインストーミング」を用いて話し合いました。話し合いの結果、参加者の話し合いでは「職員同士の業務把握」や「情報共有ツールなどの活用」が挙げられました。

講師を担当した人事課の上野裕教育係長は今回の講習会について「部門間連携について改めて考えてもらった。今後連携を発展させるためにも活発な交流が必要。今回の研修会がJAうつのみやを発展するための一助となれば」と期待を込めました。

JAでは今後も研修会を継続的に行い、人材育成に一層力を入れていく考えです。

意見交換の結果を発表する参加者



部門間連携について話し合う参加者



秋晴れの下で稲刈りを体験する児童



岡本西小5年生が稲刈り体験 青壮年部河内支部が指導

岡本西小5年生84人が10月2日、同校近くの宮越則夫さんの水田で稲刈り体験をしました。青壮年部河内支部の盟友が指導し、のこぎり鎌での稲刈りや昔の道具を使った脱穀を体験しました。

刈り取った稲を脱穀する児童



コンバインによる稲刈り作業を見学する児童

資料を使い発表を行う和氣トレーニー



活動報告会の様子



発表後質問に答えていました



融資業務トレーニー研修を活かして

9月24日(木)、本所会議室「融資業務トレーニー活動報告会」が開催。JAうつのみや金融部の和氣良太トレーニーから、農林中央金庫での融資業務トレーニー研修についての中間報告発表が行われました。

組合員の皆さまからの地域の話や活動報告をお待ちしております。写真を添えてお送りください。
※紙面の都合上、掲載されない場合もありますのでご了承願います。詳しくは総務課組合員広報係まで。

瑞穂野北小児童が青パイア収穫体験 坂本さんの「ヒロヒロファーム」

瑞 穂野北小2年生23人が10月13日、同校北側の坂本浩さん(57)の農場「ヒロヒロファーム」で青パイアの収穫体験を行いました。生活科の「町たんけん」の一環で、収穫期の圃場で青パイアの収穫を楽しみました。

ヒロヒロファームは、アスパラガスのハウスのほかに、青パイアの木約120本が植えられています。この日は、7月中旬に続いて2回目の訪問。坂本さんは「できるだけ大きな青パイアを見つけて収穫してください。きんぴらや肉と一緒に炒めるとおいしく食べられます」と説明しました。

圃場に入った児童は「どうしたら取れるの」「これが大きい」などと言いながら、収穫を体験しました。女子児童の一人は「大きくてとても重かった。家に持って帰り食べるのが楽しみ」と喜んでいました。



青パイアの特徴を説明する坂本さん



青パイアを収穫する児童

都市住民に農業・農村体験を提供する活動を活性化 第2回河内グリーン・ツーリズム研究会

河 内農業振興事務所・河宇地方農業振興協議会は10月15日に令和2年度第2回河内グリーン・ツーリズム研究会を開催しました。農業・農村体験活動を実施している組織並びに関心のある組織やJAうつのみや職員など、関係者20人が参加しました。研究会では、活動をさらに活性化するため、昨年度までに育成したグリーン・ツーリズムコーディネーターの作成したモデルプログラムを実践することにしました。今回は、実施する側の研究会員が客となり体験することによって、プログラムをさらに磨き上げること、さらにグリーン・ツーリズムに関する手法・知識を習得することが狙いとなっています。清原地区の農園・果樹園で野菜・梨等の収穫体験や梨園でティータイムを行った後、「プチマルシェよはら」で意見交換を行いました。講師のNPO法人わくわく体験群馬サポートセンター理事長の中村文彦さんより全体の感想として「新型コロナ対策ガイドライン」「定期的に行えば農家は利益がでる」などのアドバイスがありました。総合販売課の小川隆生さんは、「短い時間帯で、上手くツアーがまとまっていた」と意見を述べました。

JAでは、今後グリーン・ツーリズムの実施も視野に入れて、ツアーの作り方・コースの選定など研修の一環として研究会に参加しています。



農園代表からブロッコリーの収穫手順を教わる参加者



「こっこり」が実る梨園で、いやしのティータイム

平石支所

だより

各支所の活動や地域の情報をお届けします!



自家産農産物を活用した農家レストラン 農産物の高付加価値と農家所得の向上

平石支所管内は宇都宮市東部に位置し、鬼怒川沿いの肥沃な大地が育む、水稲、梨、トマト、キュウリ、イチゴなどの農産物や、珠玉の味「宇都宮牛」の肥育・繁殖が行われている地域です。

6次産業化を始めたきっかけは?

近年は、米価の下落や農産物の市場価格の不安定化があり、所得の安定化を図るには、消費者に直接届けるスタイルにより高付加価値化を進めることが必要ではないかと感じ、梨園に隣接する宇都宮市下平出町に自ら所有する古民家を改装し、令和2年7月に農家レストラン「Bamboo Forest Kitchen (バンブーフォレストキッチン)」をオープンさせました。



新しい農業経営に取り組む永見さん



梨園を眺め食事を楽しめる農家レストラン

今後の目標と農家経営について

自家産農産物の米、トマト、梨を中心に旬の野菜を活用したメニューと眼前に広がる自家梨園の農村風景を楽しみながらゆったりと食事ができる空間を創造し、農村との交流を提供していきたいと思っています。レストランで使用する野菜を周年多品目で栽培し、農産物を無駄なく活用することで収益の向上につなげたいと思います。ぜひ、梨園を眺めながらゆっくりと食事を楽しんでいただきたいと思います。

6次産業化とは…何ですか?

6次産業化とは、1次産業従事者(農産物の生産)が主体となって、2次産業(加工)や3次産業(流通・販売)まで踏み込んだ取り組みを行うことで、新たな付加価値を創造し、1次産業の活性化につなげようとする活動のことです。

今回は私、平石支所窓口担当の大掛美香が地区内で6次産業化法の認定を受け、自家産農産物をつんだんに使った農家レストランを紹介しました。宇都宮市下平出町でトマトに梨、稲作を営む認定農業者の永見彰宏さん(49歳)。近年のスマートフォンの普及と個人からのSNSによる情報発信により、農村部のロケーションであってもお客様が全国から来てくれる時代となったため、新しい農業経営の模索のため、就農前に中華料理店で勤務していた経験を活かし、自家農地に近い下平出町に農家レストランを開業しました。



永見さんありがとうございます。新しい農業経営にチャレンジする農家組合員さんをJAは応援しています。

各種お問い合わせはこちらへ

支所・センター電話番号

中央支所 028-633-3467	南河内支所 0285-48-2211
宝木出張所 028-622-6111	上三川支所 0285-55-1510
平石支所 028-661-4311	宇都宮北部営農経済センター 028-665-0550
南部支所 028-656-1020	宇都宮西部営農経済センター 028-658-6565
城山支所 028-652-0711	宇都宮南部営農経済センター 028-656-8484
北部支所 028-665-0003	宇都宮東部営農経済センター 028-660-3535
豊郷支所 028-624-8011	上河内営農経済センター 028-674-2164
清原支所 028-667-0151	河内営農経済センター 028-673-6911
姿川支所 028-658-6881	南河内営農経済センター 0285-48-2215
上河内支所 028-674-3333	上三川営農経済センター 0285-55-1511
河内支所 028-673-3135	

キャッシュカードの紛失・盗難
フリーダイヤル0120-082065

夜間・土・日・祝祭日の自動車事故(24時間受付)
事故受付センター フリーダイヤル0120-258931

JA葬祭(24時間受付)
アトラス宇都宮ホール 028-660-5555
アトラスファミリーホール鶴田 028-633-9200
アトラス上三川ホール 0285-55-1555

LPGガス関係 灯油・軽油・A重油の配送
フリーコール 0800-700-0085(通話無料)
※緊急連絡先028-633-0085